

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (26)

十勝大橋上流左岸におけるクサヨシ播種及びタンチョウ給餌場設置

平成 27 年に実施した十勝大橋上流左岸の公募伐採後、平成 28 年の洪水被害などがあり、草地環境に至っていない被植率の乏しい箇所について、クサヨシの播種を行いました。

また、タンチョウの給餌場の設置も合わせて実施しました。給餌場の設置は、タンチョウが安定して越冬できるよう環境省が推進している越冬地の分散、さらには観光資源を視野に入れ、平成 26 年から継続的に行っているものです。

- 日 時：平成 30 年 11 月 15 日（木） 12：20～15：00
- 参加者：環境土木科 2 年生 40 名
十勝川中流部市民協働会議 11 名（室瀬、石垣、橋本、鈴木、上田、岡田、大澤、前田、和田、鏡、中津川）
河川管理者：帯広開発建設部帯広河川事務所（2 名）
- 場 所：十勝川十勝大橋上流左岸
十勝川温泉 ホテル大平原、千代田えん堤展望台（左岸）、千代田新水路（右岸）
- 作業内容：クサヨシ播種、タンチョウ給餌場の設置

【クサヨシ播種を行った箇所図】



【 タンチョウ給餌場の設置を行った箇所図 】



作業は、十勝川中流部市民協働会議の11名と帯工2年生40名をクサヨシ播種グループ(26人)とタンチョウ給餌場設置グループ(14人)に分けて行いました。



作業開始時の様子(帯工2年生_40名)



作業説明の様子



クサヨシ播種グループの生徒



タンチョウ給餌場設置グループの生徒(バス移動時)

クサヨシ播種グループの作業状況

クサヨシの播種は、平成 27 年度に行った十勝川十勝大橋上流左岸の河畔林公募伐採後の箇所内の、被植率の乏しい箇所を重点に行いました。

作業は、播種準備として、『播種箇所のレーキ掻き』と『クサヨシ種子の計測+ピートモスの混交』の 2 班に分け行いました。

播種箇所のレーキ掻き作業は、硬くなった土を解すことで発芽し易くするために必要な作業です。



播種箇所のレーキ掻きグループ



クサヨシ種子+ピートモスの混交のグループ

● 播種するクサヨシ種子とピートモスの混交割合

名称	質量	備考
クサヨシ種子	1g/m ²	
ピートモス	0.28ℓ/m ²	7ℓ/25m ² (1区画 5m×5m)



クサヨシの質量を計測する様子



ピートモスを攪拌容器に入れる様子



ピートモスにクサヨシ種子を入れる様子



クサヨシとピートモスの混交する様子



播種用バケツに仕分ける様子



播種するクサヨシ



レーキ掻きの様子



クサヨシ播種の様子



播種した後、踏みしめた状態



タンチョウ給餌場設置グループの作業状況

タンチョウの給餌場設置の作業は、生徒 14 人を 2 班（1 班 7 人）に分け、十勝川温泉 ホテル大平原の畑内と千代田えん堤展望台に設置しました。

給餌場の設置前にも係わらず、ホテル大平原の畑にタンチョウがいました。



ホテル大平原の畑で確認したタンチョウ

タンチョウ給餌場の製作は、単管パイプ 3 本と自在クランプを使いデントコーンが入っているバケツを設置、単管パイプを覆うようムシロでカモフラージュします。

● 十勝川温泉 ホテル大平原班



単管パイプを組み立てる様子



置台の上にバケツを設置



バケツにデントコーンを入れる様子



ムシロでパイプをカモフラージュ



給餌場の完成



完成後の集合写真

●千代田えん堤展望台班

千代田えん堤の設置個所は、旧千代田パークホテルの解体後に整備された駐車場から極力視角とならない場所を選定しました。



設置個所のポイントを説明する様子



設置個所を探す様子



単管パイプを組み立てる様子



置台の上にバケツを設置



バケツにデントコーンを入れる様子



ムシロでパイプをカモフラージュ



完成後の集合写真



給餌場の完成

●千代田新水路班

千代田新水路は、十勝川中流部市民協働会議メンバーで展望台から見える位置に設置しました。



単管パイプを組み立てる様子



正面が千代田新水路管理棟（展望台）



ムシロでパイプをカモフラージュ



完成後の集合写真